

てど勿た額に神の印亦き人々を傷ふべしと命せられたり且これに人を殺さず惟五月の間
 かれらを苦しむ事を前れたり其痛苦し人蠅に刺れたる時其痛苦しの如しこれ時に人々死を求んと爲ども
 能之亦死んことを願ふも死に運去べし此蠅の状ハ戦のために備たる馬の如し頭には金の冠の如きもの
 戴き其面ハ人の面の如し此に女の髪ハ獅子の齒の如しまた鐵の胸當の如き胸當ハ
 う其翼の音ハ數多の馬の戰車を引て戰場に馳るが如し且これに蠅の尾の如き尾と蠅とあり此蠅五月
 のおひだ人を傷ふ權を有りこの蠅に王の威威を有りこの蠅に王の威威を有りこの蠅に王の威威を有り
 リヤの音にてアポリアンと云一の禮す去ておは二の禍至らんとす○第六の天の使徒を吹し時
 われ神の前なる金の祭壇の四角より出る聲ありてこの聲を持る第六の天の使徒をさく曰かの響れて
 大河エブラの邊に在る四人の使徒を釋せ乃ち四人使徒釋れたる年月日時未だ至りて人ハ三分の一を
 殺さん爲に之を備しもの也騎兵の數に牙あり我りの數を聞きわれ異象に此馬と之に乗る者を見し
 其形狀かくの如し彼等ハ灰色、紫色、硫磺色の胸當を着馬の首ハ獅子の首の如く其口よりハ火と煙と
 硫磺ハづ此馬の口より出る火と煙と硫磺と三のもの爲お人の三分の一殺れたりこの馬の力量ハ口
 と尾にあり其尾ハ蛇の如にして首あり之を以て人を傷ふ也この禮をて殺れざる餘れ人々ハ何りの手な
 す所を悔改め亦惡鬼を拜し見ても聞ても行ても得ざる金銀銅石木の偶像を拜し又りの兎殺魔術
 姦淫、盜竊を悔改めず
 我また一人の強き天使の雲を衣て天より降り降るを見たり虹の首にあり其面ハ日の如く其足ハ火
 の柱の如し其手にハ展たる小き巻をどり其右れ足を海の上にふみ左の足を地を履獅子の吼る如く大

新約全書
 卷三 四二五
 卷三 四二六
 卷三 四二七
 卷三 四二八
 卷三 四二九
 卷三 四三〇
 卷三 四三一
 卷三 四三二
 卷三 四三三
 卷三 四三四
 卷三 四三五
 卷三 四三六
 卷三 四三七
 卷三 四三八
 卷三 四三九
 卷三 四四〇
 卷三 四四一
 卷三 四四二
 卷三 四四三
 卷三 四四四
 卷三 四四五
 卷三 四四六
 卷三 四四七
 卷三 四四八
 卷三 四四九
 卷三 四五〇
 卷三 四五〇

聲を呼れり呼れるるとき七の雷ありて聲を出せり七の雷聲を發しし時われ之を書記さんとせしお天より
 出る聲ありて此七の雷の言ると之を讀之を封して書記す可らずと曰るを聞き我の見る所の海と地と
 防りける天の使石の手を擧て天に向ひ世々窮なく生る者即ち天および其中のもの地および其中のもの
 海および其中の物を遣たる者指て誓ひ曰ける此のち時を延す可らず第七の天使の聲を出すとき即
 ち強き吹き至りて神の僕ある預言者等ハ示し給ひし如く其與義成就すべし我が聞き所の天より
 出し聲きた我に曰ける行て夫婦と地ハ降り立る天使の手に持てこの展たる小き巻を取我の天使
 の所へ往て之に曰けるハ請小き巻を我に予し彼ハひけるハ此巻を取て食盡せ爾の腹苦く爲べし其口に入
 るときハ蜜の如く甜らんわれ天使の手より小き巻を取て之を食しに口を在し時ハ其甜くと蜜の如かり
 し食盡しし時わが腹苦く爲たりかれ我ハ曰けるハ爾再び諸民諸國諸音諸王の事を預言すべし
 われ樹の如き聲をすられたり天使われ曰けるハ起て神の殿と香壇並に其處にて拜する者
 を度れ二殿の外の庭へ還して度る可らず蓋之れを異邦人に予へ給ひたれば地も亦これら四十二ヶ月のおひだ
 聖城を踐踏さん我れが二人の證者に能を予ん彼等席の衣を着て千二百六十日の間預言すべし彼等ハ
 地を宰する主の前に立る二の橄欖の樹二の燈臺ありもし彼等を害せんとする者われは此の如く殺るべし
 て其敵を滅すなり若し彼等を害せんとする者われは其者ハ此の如く殺るべしこれら預言する間天を閉
 て雨を降ざらむむむの權を有り亦水と血も變らせ且その心の任に幾回にても各様の災殃を以て地を擧權
 を有り彼等が其罪をなし畢んば其罪をなし畢んば其罪をなし畢んば其罪をなし畢んば其罪をなし畢んば
 大なる邑の欄にあり此邑を繼てツロムと名け亦エゾプトと名け且主の十字架に懸られ給ひし所なり

新約全書
 卷三 四六一
 卷三 四六二
 卷三 四六三
 卷三 四六四
 卷三 四六五
 卷三 四六六
 卷三 四六七
 卷三 四六八
 卷三 四六九
 卷三 四七〇
 卷三 四七一
 卷三 四七二
 卷三 四七三
 卷三 四七四
 卷三 四七五
 卷三 四七六
 卷三 四七七
 卷三 四七八
 卷三 四七九
 卷三 四八〇
 卷三 四八一
 卷三 四八二
 卷三 四八三
 卷三 四八四
 卷三 四八五
 卷三 四八六
 卷三 四八七
 卷三 四八八
 卷三 四八九
 卷三 四九〇
 卷三 四九〇

リ 聖十七卷三十五
 ヲ 聖十七卷三十三
 ノ 聖十七卷三十二
 ハ 聖十七卷三十一
 ヲ 聖十七卷三十
 ノ 聖十七卷二十九
 ハ 聖十七卷二十八
 ヲ 聖十七卷二十七
 ノ 聖十七卷二十六
 ハ 聖十七卷二十五
 ヲ 聖十七卷二十四
 ノ 聖十七卷二十三
 ハ 聖十七卷二十二
 ヲ 聖十七卷二十一
 ノ 聖十七卷二十
 ハ 聖十七卷十九
 ヲ 聖十七卷十八
 ノ 聖十七卷十七
 ハ 聖十七卷十六
 ヲ 聖十七卷十五
 ノ 聖十七卷十四
 ハ 聖十七卷十三
 ヲ 聖十七卷十二
 ノ 聖十七卷十一
 ハ 聖十七卷十
 ヲ 聖十七卷九
 ノ 聖十七卷八
 ハ 聖十七卷七
 ヲ 聖十七卷六
 ノ 聖十七卷五
 ハ 聖十七卷四
 ヲ 聖十七卷三
 ノ 聖十七卷二
 ハ 聖十七卷一

諸民族諸國の者三日半の間これらの屍を見かつ其屍を墓に葬ることを許さず地にすむ者等これらの死しお因て喜び樂み互に禮物を贈答せん蓋この二人の預言者地お住ものを皆められたれ三日半の死者の靈神より出て彼等の中に入から起て其足を立しかむ之を見もの大に懼たりわれ天より大なる聲ありて此に升れど彼等に言を聞け彼等に乘りて天に升れり其敵之れを見たりこの時大なる地震ありて邑の十分の一傾れ此地震の爲む死し者七千人遺れる者等ハ大に懼れ聲を天の神を歸せり第三の禍すき去り第三の禍速に來らんとす○第七の天使號を吹しき天に大なる聲ありて曰この世の諸國ハ我儕の主および主のキリストの屬と爲りキリスト世々窮なく之を治め給せん神の前お在りてに坐し居たる二十四人の長老俯伏して神を拜し曰けるハ今在し昔し不在す全能の主たる神ハ我儕感謝す爾すでお大なる權を執て政事を施し給ふに因て諸國の民怒を懷けり爾の怒も亦至れり且死し者を審判して爾の僕か預言者及び聖徒からびわ大いとの別なく其名を懼るる者に賞を予へ地を占す者をして給ふ時既に至れり時に神の殿天お開け殿の中に神の約束の櫃みゆ又閃電と雷と迅雷および地震と大なる雷と有き

愛に大なる異象天に現る一人の婦あり日を着月を足の下にふみ首に十二の星の冕を戴けり彼女でお孕み居しが子を産んとして甚く苦み泣叫べりまた一の異象天に現る一條の大なる赤龍あり之に七の首と十の角あり其七の首を戴けりその尾にて天の星三分の一を曳これ地に墮せり此龍子を産んとする婦の前おちた産を得て其子を食んとす婦男子を生り其子鐵の杖をもて萬國の民を主理らんとす彼神及其寶座の下お坐られたり婦のがれて野を往り神うてて彼を千二百六十日

リ 聖十七卷三十一
 ヲ 聖十七卷三十
 ノ 聖十七卷二十九
 ハ 聖十七卷二十八
 ヲ 聖十七卷二十七
 ノ 聖十七卷二十六
 ハ 聖十七卷二十五
 ヲ 聖十七卷二十四
 ノ 聖十七卷二十三
 ハ 聖十七卷二十二
 ヲ 聖十七卷二十一
 ノ 聖十七卷二十
 ハ 聖十七卷十九
 ヲ 聖十七卷十八
 ノ 聖十七卷十七
 ハ 聖十七卷十六
 ヲ 聖十七卷十五
 ノ 聖十七卷十四
 ハ 聖十七卷十三
 ヲ 聖十七卷十二
 ノ 聖十七卷十一
 ハ 聖十七卷十
 ヲ 聖十七卷九
 ノ 聖十七卷八
 ハ 聖十七卷七
 ヲ 聖十七卷六
 ノ 聖十七卷五
 ハ 聖十七卷四
 ヲ 聖十七卷三
 ノ 聖十七卷二
 ハ 聖十七卷一

のわひだ食としめん爲に備給へる一の所あり斯て天を戰起れりミカエルの使者を奉て龍を戰公龍も亦うの使者を奉て之を戰ひしが勝て能す且再び天に居ことを得す是に於て此大なる龍すなち惡魔と呼ばれサタンと呼べる者全世界の人を惑す老蛇地を逐下さる其使者も亦お逐下されたり天お大なる聲あるを聞り曰く我儕の神の救と能力と其國と神のキリストの權今すでお至れり蓋われらの神の前お晝夜われらの兄弟を訴ふる者既お逐下されたり我儕の兄弟ハ羔の血および己が證せし所の道お因て之に勝り彼等ハ死に至るまで其生命を惜ぎりき是故に天と天お居る喜べ地と海ハ神ある哉り惡魔おの時時の幾時も無をまり大なる怒を懷て爾曹の所に下れり龍おの既に地に逐下されしを見て彼の男子を生る婦を答せりこの婦大なる翼の二の翼をすられ野に飛て己が所に至り其處おて蛇を遡一年と二年と半年のわひだ養はれたり蛇の口より水を河の如く婦の後に吐て之を漂さんとしり地婦を助け口を啓て龍の口より吐たる水を吞盡せり龍婦を怒りてその餘の兒女すあてち神の誡を守りイエスの證を有つものど戰へんとて往り

龍の如く龍の能力と座位と大なる權威を之にすたり我この獸の一の首傷を受けて幾と死んどする状あるを見たり其死んとする状なりし傷愈けれれば全世界の人これを奇として従へり龍の權威を獸にすしに因て人々龍を拜し又この獸を拜し曰けるハ龍か此獸の如き者あらんや誰か之と交戰をなすを得もの有ん乎この獸大なる言と証す言をいへ口をすられ又四十二ヶ月のわひだ動をなすべき權をすられ

かれ口を啓て神を讃し其名を讃し其幕屋よふ天にすむ者等を誦せり。かれ聖徒等と戦ふ之に勝てを許され又諸形、諸民、諸音、諸國を宰とる權威を予られたり。地に住る凡人即ち世の如く殺され給ひし者の生命の冊に其名を録されざる者等ハ此獸を拜せし耳ある者ハ之を聽べし。凡ハ人ハ勝にする者ハ已て勝にせられ力にて人を殺す者ハ已て刀にて殺さるべし。聖徒の冠と信仰の冠と在○我また一四の獸の地より出るを見たり之に二の角ありて羔の角の如し且その言ふてと龍の如し。この獸先の獸の前にて先の獸の凡の權威をとり地と其上に住る者をして先に死んとする狀なり。この獸を拜せしめたり。また大なる奇徴をなし人々の前にて火を天より地に降し且その權を得て獸の前にて行ふ所の奇徴を以て地にすむ者を戮し彼等ハ語りて彼の刀傷を受けてなほ活る獸の像を作らしむ。彼の像に生命を予へ之をして言ふてとを得しめ又その像を拜せざる者を殺しむるの權を予られたり。かれ衆人をして大小貧富自主奴隷の別なく或ハ右の手或ハ左の手に印を授けしむ。印すなとてこの獸の名を以てざる者あるハ其名の數あらざる者ハ凡て買易する事を得ざらとめたり。此獸の數目の義を知らざる者ハ智慧あり才智ある者ハ此獸の數を算し獸の數ハ人の數なり其數ハ六百六十六あり

第四節 われ觀して羔の山上に立ち十四萬四千の八とて偈にあり皆その額に羔の名および羔の父の名を書せり。われ天より聲あるを聞き乘の水の聲の如く大なる雷の聲の如し我が開き此獸ハ琴の琴をひく琴の音なり。かれら新しき歌を寶座の前より次四の生物と長老等の前に際ふ此獸ハ轉ることを得て地より來れる十四萬四千の外ハ學得とぞなし。他等ハ婦女と交りて其身を玷ざる聖者あり且羔の往ところ何處にても之に從ふ彼等ハ人の中より贖出されたる者にて神と羔に獻し初の果あり

イ 一四章一節 一四章一節
ロ 一四章二節 一四章二節
ハ 一四章三節 一四章三節
ニ 一四章四節 一四章四節
ヒ 一四章五節 一四章五節
ヘ 一四章六節 一四章六節
ト 一四章七節 一四章七節
チ 一四章八節 一四章八節
リ 一四章九節 一四章九節
ヌ 一四章十節 一四章十節
デ 一四章十一節 一四章十一節
ケ 一四章十二節 一四章十二節
コ 一四章十三節 一四章十三節
セ 一四章十四節 一四章十四節
ソ 一四章十五節 一四章十五節
タ 一四章十六節 一四章十六節
チ 一四章十七節 一四章十七節
リ 一四章十八節 一四章十八節
ヌ 一四章十九節 一四章十九節
デ 一四章二十節 一四章二十節
ケ 一四章二十一節 一四章二十一節
コ 一四章二十二節 一四章二十二節
セ 一四章二十三節 一四章二十三節
ソ 一四章二十四節 一四章二十四節
タ 一四章二十五節 一四章二十五節
チ 一四章二十六節 一四章二十六節
リ 一四章二十七節 一四章二十七節
ヌ 一四章二十八節 一四章二十八節
デ 一四章二十九節 一四章二十九節
ケ 一四章三十節 一四章三十節
コ 一四章三十一節 一四章三十一節
セ 一四章三十二節 一四章三十二節
ソ 一四章三十三節 一四章三十三節
タ 一四章三十四節 一四章三十四節
チ 一四章三十五節 一四章三十五節
リ 一四章三十六節 一四章三十六節
ヌ 一四章三十七節 一四章三十七節
デ 一四章三十八節 一四章三十八節
ケ 一四章三十九節 一四章三十九節
コ 一四章四十節 一四章四十節
セ 一四章四十一節 一四章四十一節
ソ 一四章四十二節 一四章四十二節
タ 一四章四十三節 一四章四十三節
チ 一四章四十四節 一四章四十四節
リ 一四章四十五節 一四章四十五節
ヌ 一四章四十六節 一四章四十六節
デ 一四章四十七節 一四章四十七節
ケ 一四章四十八節 一四章四十八節
コ 一四章四十九節 一四章四十九節
セ 一四章五十節 一四章五十節
ソ 一四章五十一節 一四章五十一節
タ 一四章五十二節 一四章五十二節
チ 一四章五十三節 一四章五十三節
リ 一四章五十四節 一四章五十四節
ヌ 一四章五十五節 一四章五十五節
デ 一四章五十六節 一四章五十六節
ケ 一四章五十七節 一四章五十七節
コ 一四章五十八節 一四章五十八節
セ 一四章五十九節 一四章五十九節
ソ 一四章六十節 一四章六十節
タ 一四章六十一節 一四章六十一節
チ 一四章六十二節 一四章六十二節
リ 一四章六十三節 一四章六十三節
ヌ 一四章六十四節 一四章六十四節
デ 一四章六十五節 一四章六十五節
ケ 一四章六十六節 一四章六十六節
コ 一四章六十七節 一四章六十七節
セ 一四章六十八節 一四章六十八節
ソ 一四章六十九節 一四章六十九節
タ 一四章七十節 一四章七十節
チ 一四章七十一節 一四章七十一節
リ 一四章七十二節 一四章七十二節
ヌ 一四章七十三節 一四章七十三節
デ 一四章七十四節 一四章七十四節
ケ 一四章七十五節 一四章七十五節
コ 一四章七十六節 一四章七十六節
セ 一四章七十七節 一四章七十七節
ソ 一四章七十八節 一四章七十八節
タ 一四章七十九節 一四章七十九節
チ 一四章八十節 一四章八十節
リ 一四章八十一節 一四章八十一節
ヌ 一四章八十二節 一四章八十二節
デ 一四章八十三節 一四章八十三節
ケ 一四章八十四節 一四章八十四節
コ 一四章八十五節 一四章八十五節
セ 一四章八十六節 一四章八十六節
ソ 一四章八十七節 一四章八十七節
タ 一四章八十八節 一四章八十八節
チ 一四章八十九節 一四章八十九節
リ 一四章九十節 一四章九十節
ヌ 一四章九十一節 一四章九十一節
デ 一四章九十二節 一四章九十二節
ケ 一四章九十三節 一四章九十三節
コ 一四章九十四節 一四章九十四節
セ 一四章九十五節 一四章九十五節
ソ 一四章九十六節 一四章九十六節
タ 一四章九十七節 一四章九十七節
チ 一四章九十八節 一四章九十八節
リ 一四章九十九節 一四章九十九節
ヌ 一四章一百節 一四章一百節

うの口諸言亦し彼等ハ罪なき者也。我また一人の天使の宮幕中央を飛を見たり彼地おすむ者即ち諸國、諸族、諸音、諸民に宣傳へん爲に永遠ある所の福音を携へ。大なる聲にて曰けるハ神を畏れ榮を之に歸せよ。蓋神の審判し給ふとき既に至ればなり。天地海及び水の源を造り給ひし者を拜せよ。また一人の天使の後に從ひ往て曰けるハ大なる聲にて曰けるハ若し誰と其像を拜し其印を額あるハ手に受る者らば、必ず神の怒の酒を飲ん即ち神の怒の杯に物を雜すして擱るもの也。また聖天使たち及び羔の前にて火と硫磺を以て苦めらるべし。その苦めらるる煙上に騰て盡る時亦し其像を拜する者また其名の印誌を受る者ハ夜晝安からざる也。神の誡どイエヌを信する信仰を偽つ聖徒の不剛とに在。われ天より聲ありて我言ふを開り曰んが此言を書せ今より後主お在て死る死人ハ罪なり。雖も亦いん然かれらハ其聲を止て息ん其功てこれに隨へん。われ觀じしに白雲あり其雲の上に人の子の如きもの首に金の量を戴き手に利劍を持て坐せり。また一人の天使殿より出大なる聲にて雲の上に坐する者に曰けるハ知照すてに至れ。地の穀物すてに熟じたり。爾の劍を入れて別雲の上に坐する者ハ地を入れれば地の穀物刈取れり。また一人の天使天ホある殿より出かれも亦利劍を持ち。また一人の火を掌る權威を有る天使祭壇より出大なる聲をて利劍を帯る者お目けるハ地の葡萄すてに熟じたり。爾の利劍を入れて葡萄の球を加えめよ。天使の劍を地に入地の葡萄を刈斫めて神の怒の大なる聲に投入り。地の外にて此聲を殿に血聲より出て馬の轡に連はるに至り廣れること七十五里お及べり。我また大にして且奇ある異象の天に現れしを見たり。七人の天使末後の七の災殃を持ちり神の

イ 一五章一節 一五章一節
ロ 一五章二節 一五章二節
ハ 一五章三節 一五章三節
ニ 一五章四節 一五章四節
ヒ 一五章五節 一五章五節
ヘ 一五章六節 一五章六節
ト 一五章七節 一五章七節
チ 一五章八節 一五章八節
リ 一五章九節 一五章九節
ヌ 一五章十節 一五章十節
デ 一五章十一節 一五章十一節
ケ 一五章十二節 一五章十二節
コ 一五章十三節 一五章十三節
セ 一五章十四節 一五章十四節
ソ 一五章十五節 一五章十五節
タ 一五章十六節 一五章十六節
チ 一五章十七節 一五章十七節
リ 一五章十八節 一五章十八節
ヌ 一五章十九節 一五章十九節
デ 一五章二十節 一五章二十節
ケ 一五章二十一節 一五章二十一節
コ 一五章二十二節 一五章二十二節
セ 一五章二十三節 一五章二十三節
ソ 一五章二十四節 一五章二十四節
タ 一五章二十五節 一五章二十五節
チ 一五章二十六節 一五章二十六節
リ 一五章二十七節 一五章二十七節
ヌ 一五章二十八節 一五章二十八節
デ 一五章二十九節 一五章二十九節
ケ 一五章三十節 一五章三十節
コ 一五章三十一節 一五章三十一節
セ 一五章三十二節 一五章三十二節
ソ 一五章三十三節 一五章三十三節
タ 一五章三十四節 一五章三十四節
チ 一五章三十五節 一五章三十五節
リ 一五章三十六節 一五章三十六節
ヌ 一五章三十七節 一五章三十七節
デ 一五章三十八節 一五章三十八節
ケ 一五章三十九節 一五章三十九節
コ 一五章四十節 一五章四十節
セ 一五章四十一節 一五章四十一節
ソ 一五章四十二節 一五章四十二節
タ 一五章四十三節 一五章四十三節
チ 一五章四十四節 一五章四十四節
リ 一五章四十五節 一五章四十五節
ヌ 一五章四十六節 一五章四十六節
デ 一五章四十七節 一五章四十七節
ケ 一五章四十八節 一五章四十八節
コ 一五章四十九節 一五章四十九節
セ 一五章五十節 一五章五十節
ソ 一五章五十一節 一五章五十一節
タ 一五章五十二節 一五章五十二節
チ 一五章五十三節 一五章五十三節
リ 一五章五十四節 一五章五十四節
ヌ 一五章五十五節 一五章五十五節
デ 一五章五十六節 一五章五十六節
ケ 一五章五十七節 一五章五十七節
コ 一五章五十八節 一五章五十八節
セ 一五章五十九節 一五章五十九節
ソ 一五章六十節 一五章六十節
タ 一五章六十一節 一五章六十一節
チ 一五章六十二節 一五章六十二節
リ 一五章六十三節 一五章六十三節
ヌ 一五章六十四節 一五章六十四節
デ 一五章六十五節 一五章六十五節
ケ 一五章六十六節 一五章六十六節
コ 一五章六十七節 一五章六十七節
セ 一五章六十八節 一五章六十八節
ソ 一五章六十九節 一五章六十九節
タ 一五章七十節 一五章七十節
チ 一五章七十一節 一五章七十一節
リ 一五章七十二節 一五章七十二節
ヌ 一五章七十三節 一五章七十三節
デ 一五章七十四節 一五章七十四節
ケ 一五章七十五節 一五章七十五節
コ 一五章七十六節 一五章七十六節
セ 一五章七十七節 一五章七十七節
ソ 一五章七十八節 一五章七十八節
タ 一五章七十九節 一五章七十九節
チ 一五章八十節 一五章八十節
リ 一五章八十一節 一五章八十一節
ヌ 一五章八十二節 一五章八十二節
デ 一五章八十三節 一五章八十三節
ケ 一五章八十四節 一五章八十四節
コ 一五章八十五節 一五章八十五節
セ 一五章八十六節 一五章八十六節
ソ 一五章八十七節 一五章八十七節
タ 一五章八十八節 一五章八十八節
チ 一五章八十九節 一五章八十九節
リ 一五章九十節 一五章九十節
ヌ 一五章九十一節 一五章九十一節
デ 一五章九十二節 一五章九十二節
ケ 一五章九十三節 一五章九十三節
コ 一五章九十四節 一五章九十四節
セ 一五章九十五節 一五章九十五節
ソ 一五章九十六節 一五章九十六節
タ 一五章九十七節 一五章九十七節
チ 一五章九十八節 一五章九十八節
リ 一五章九十九節 一五章九十九節
ヌ 一五章一百節 一五章一百節

